

まつどミュージアム

No.12 2004年(平成16年)3月



館蔵錦絵展

錦絵から歴史を読む

江戸名所・虚無僧・旅・風俗

3.31 Wed — 5.16 Sun

展示資料紹介

館蔵錦絵展「錦絵から歴史を読む—江戸名所・虚無僧・旅・風俗」の展示資料のなかから歌川広重・葛飾北斎の作品をご紹介します。



「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」

歌川広重
復刻版 安政4年(1857)

大橋は、新大橋(中央区・江東区)のことで、千住大橋・両国橋に次ぎ隅田川で3番目に架橋された。川向こうの深川地域の海辺では江戸初期以来埋め立て開発が進み、元禄6年(1693)両国橋(大橋)の下流に新たに架橋されたため、新大橋の名がついた。左手が浜町(中央区)、対岸に幕府御船蔵があり、昔は御用船安宅丸が繫留されていたので、橋の東岸を安宅とよんだ。夕立でにわかにかき曇った黒雲から驟雨が降り出し、駆け出した人々の姿が印象的で、雨脚の音が聞こえそうな臨場感がある。「名所江戸百景」シリーズ第一の傑作といわれる。



「名所江戸百景 利根川ばらばらまつ」

歌川広重
復刻版 安政3年(1856)

広重が錦絵に描く「利根川」は、江戸川を指す。「ばらばらまつ」は、江戸川の下流、妙見島(江戸川区)辺りを描いたもので、藍色の水面と空、緑の松、白帆の川船という定式化した要素に加え、漁師が投網をうった瞬間を捉えている。広がった細かい網の目の向こうに川上の風景が透けてみえる画だが、彫り師は苦労したことだろう。川辺に繁る葦と白鷺から、夏の風景と思われる。



「名所江戸百景 水道橋駿河台」

歌川広重
復刻版 安政4年(1857)

水道橋(文京区・千代田区)は、神田川に架かる橋で、画面の右手・小石川と対岸の小川町を結ぶ。画面には見えないが、左手の神田川下流には、神田・日本橋方面の飲料水を供給した上水道(神田上水)が木製の樋で架けられており、これにちなんで画面の橋が水道橋とよばれる。周囲の台地は、駿府(静岡市)にいた大御所徳川家康の死後、家臣たちが江戸に移住した際ここに屋敷を与えられたので、駿河台とよばれるようになったという説がある。五月晴れの青空の下、遠景に富士山を望み、近景には極端に大きく鯉鱈を描く、いわゆる近像型構図の典型例である。



「東海道五十三次 草津」

葛飾北斎

文化年間(1804~18)中期頃*前期のみ展示

代表的な浮世絵師葛飾北斎が描いた「東海道五十三次」は、歌川広重の出世作「東海道五拾三次」(保永堂版)など、後に人気を博した東海道揃物の先駆的作品である。ここでは、東海道52番目の草津宿(滋賀県草津市)と手前51番目の石部宿との途中、梅木立場(栗東市、宿場間の休憩所)にあった名薬「和中散」看板前の通行者を描く。和中散は、江戸時代の初めに販売がはじまった胃腸薬で、旅人たちの道中薬として有名。看板の前を通る空荷の馬、馬を引く馬子や旅人が顔を向ける先には、怪しげな旅姿の虚無僧を配置している。

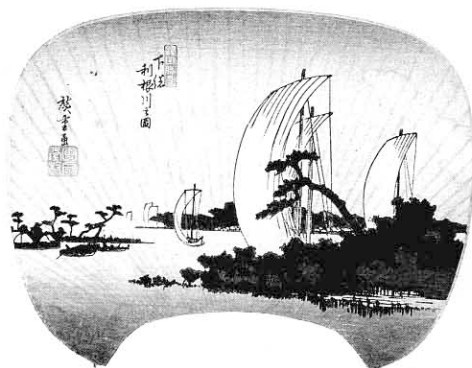


「東海道・五十三次(隸書東海道) 坂の下」

歌川広重

嘉永年間(1848~54)前期*後期のみ展示

東海道49番目の宿場・坂の下(三重県関町)から次の土山宿へ向かうと、東海道の難所・鈴鹿峠に差しかかる。峠の坂道を上り下りする旅人の中に、天蓋(深編み笠)を被り、左脇には袋に入れた尺八を差している虚無僧が描かれている。市中を托鉢修行する虚無僧は、着流しに虚無僧下駄を履いているが、諸国修行の虚無僧は、この錦絵のように手甲・脚絆を身に着けていた。東海道を描く広重の錦絵は、名作「東海道五拾三次」(保永堂版)を始めとして20数種類あるといわれ、この錦絵のシリーズは「東海道」という外題の文字が隸書で書かれているので、「隸書東海道」と呼ばれている。



「諸国勝景 下総利根川之図」

歌川広重

江戸時代後期*前期のみ展示

蒸し暑い江戸の夏を凌ぐ団扇にも、錦絵が使われた。団扇に描かれた絵は、涼を誘う絵柄が似合う。ところで、広重は、下総では利根川を描いた錦絵を多く残している。彼の描く利根川とは今の江戸川を指し濃い藍色の水面、川端の松、水上を走る満帆の川船は、「名所江戸百景」シリーズの「利根川ばらばら松」を始め、好んで絵にしている。なお、「諸国勝景」というシリーズは良く分からない。

平成15年4月、開館10周年を迎えました！

—写真で振り返る博物館10年の歩み—

平成5年4月29日に開館した松戸市立博物館は、これまでに100万人をこえる方々にご利用いただきました。



開館

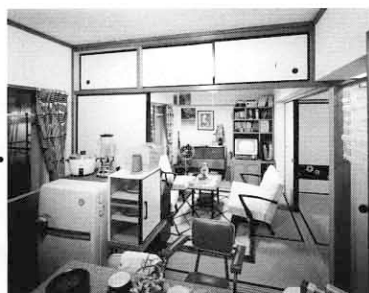
平成5年4月29日、生憎の雨の中のテープカット。



博物館職員総出で来館された方々をお出迎え。



竪穴住居が大人気。

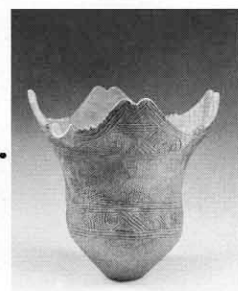


平成12年、20世紀最後の年に常設展示・常盤平団地（昭和30年代の暮らし）が注目を浴びました。



開館5周年特別記念展

「シルクロードとガンダーラ」
平成9年3月20日～5月11日
松戸市が収集したシルクロード関係資料全点を初めて公開しました。



平成6年6月28日、当館所蔵の幸田貝塚（縄文時代前期）出土品266点が一括して国の重要文化財の指定を受けました。



平成13年1月27日から岩崎卓也館長による連続講演会が始まりました。



平成14年6月16日、松戸市立博物館友の会が発足しました。友の会設立総会で記念講演をおこなう濱島正士会長。



開館10周年記念特別展

「川の道 江戸川」平成15年10月11日～11月30日
松戸の歴史に関係の深い江戸川を取り上げ、様々な視点から江戸川と人々の関わりを紹介しました。

利用案内

★開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
★休館日 月曜日（ただし祝・休日にあたる時はその翌日）
館内整理日（毎月第4金曜日）
年末年始（12月28日～1月4日）

★観覧料

区分	個人	団体（20人以上）
一般	300円	240円
高校生・大学生	150円	100円
小学生・中学生	100円	60円

*小学生未満及び市内在住の70才以上の方は無料です。
*土曜日は小中学生は無料です。
*企画展・特別展等は別料金をいただくことがあります。

★交通 新京成線八柱駅・JR武蔵野線新八柱駅下車
新京成バス小金原団地循環行き「公園中央口」下車

★ホームページ

http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse

まつどミュージアム No.12
発行日 2004年（平成16年）3月31日
編集・発行 ©松戸市立博物館
〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671
☎047-384-8181